

## Parks and Public Space (公園と公共スペース)

### 全てのニューヨーク市民が住宅から徒歩 10 分以内で公園に行けるようにする

何世代にもわたりニューヨークで最も大切にされてきた公共インフラ形態の一つが公園である。世界的に有名なセントラル・パークやプロスペクト・パークといった代表的な公園から、住宅地域の遊び場や、ウォーターフロントの新生レクリエーション地域に至るまで、公園は、ニューヨーク市民にとって不可欠な公共の場である。市全体で、市、州または連邦が所有するパークランド（公園または公園として利用できる土地）は 5 万 2000 エーカー以上存在し、これは市全域の 25% に相当する。

公園と公共スペースは、市の各住宅地域において不可欠な役割を担っている。運動の場を提供し、公式または非公式な交流を行うためのフォーラムとなり、大切なエコロジー機能の役割を果たしている。さらに、経済発展の重要な触媒となって、不動産価値を高め、住宅地域を活気づけている。

公園の重要性にも関わらず、200 万人以上のニューヨーク市民が今だに公園から徒歩 10 分以上の距離に住んでおり、人口の増加につれて、様々な公園と公共スペースの不足性は深刻化する一方である。ニューヨーク住民のレクリエーションへの関心は、クリケット場やカヤック乗り場にも及んでおり、市の公園も確実に進化させなければならない。

公園と公共スペースの需要増加に対応するため、我々はニューヨークの公園整備の素晴らしい第三時代の幕開けを迎えている。第一時代は、19 世紀の後半にフレデリック・ロー・オルムステッドと彼のパートナーのカルヴァート・ヴォークスが 1900 エーカー以上の市のパークランドを設計した時に始まった。その最も代表的な広場がセントラル・パークである。第二の素晴らしい時代は 1934 年にロバート・モーゼスが N Y 市公園局長に任命された時に始まった。彼はニューディール政策の予算を利用して市の公園面積を 2 倍以上に拡大した。しかし 1970 年代は維持管理が悪く、市の公園

は危険で手入れもされていない状態で放置されていた。1981 年、エドワード・コッチ市長は設備投資計画を策定し、それまでのシステムの大転換を開始した。過去 10 年間に我々は政策を加速させ、公園の変貌は素晴らしき第三時代に突入した。そして 2007 年、PlaNYC は公園と公共スペースに対する歴史的投資の時代の到来を告げたのである。

空閑地や設備投資予算には限度があることから、公園を新設するには創造的な新戦略が必要である。例えば、以前はブルックリンの産業コンクリートミキサー工場だった場所が魅力的な水辺公園に変身したコンクリート・プラント・パークや、見捨てられていた高架貨物鉄道をマンハッタンの名所のひとつに変貌させたハイラインのように、従来とは異なった用地の再利用を続けていく。

更に、これまでに行ってきた公園と公共スペースに対する多大な投資を保護していくことも必要である。長期的に公園と公共スペースの健全性を保っていくためには、継続的なメンテナンスと管理を行い、注意を払っていくことが必要である。

我々は大きな成果を上げてきた。2007 年以降、公園と公共スペースへのアクセス改善を行い、25 万人以上のニューヨーク市民が住居から徒歩 10 分以内で公園に行けるようにした。この新たな一連の整備には、約 180 ヶ所の「校庭を遊び場に」および約 260 の「グリーンストリート（植栽の整った街路）」が含まれている。新設予定公園 8 ヶ所の内、4 ヶ所で既に工事が始まっており、43 万本以上の木を新たに植えている。

しかし、単に公園を利用できるというだけでは十分とは言えない。公園と公共スペースの種類と質も重要である。我々は多様なオープンスペースの必要性に対応すべく、公園以外の公共スペースをどのように利用できるか再考し、同時に生態系を強化できる可能性を有する、持続可能で利用価値の高いオープンスペースの設計を始めている。

### Our Plan (計画)

公園の質と、全てのニューヨーク市民のアクセスの要求を満たすため、我々は引き続き既存の公園を改善し、市全体の遊休地を変貌させるための新たなチャンスを発見し、公共スペースの管理強化

を行っていかねばならない。我々が目標としているのは、オープンスペースの必要性が最も高い住宅地域における影響力の強いプロジェクトである。具体的には、最も公園が不足している市内の住宅地域の多くを豊かにするためのコミュニティ・ガーデンや都市農業の機会を提供することである。我々は引き続き、ブルックリンのカルヴァート・ヴォークス公園やブロンクスのサウンド・ビュー公園のように、市全体の住民を引き付ける公園を建設・改造していく。

我々は発想を新たにし、街を緑化する。活力溢れるオープンスペースは生物の多様性を必要とし、またそれを支えていることから、市は自然地域の健全性と活力を向上させるための取組みを進める。最後に、管理と保護を強化し、オープンスペースの長期的な健全性を確保し、これまでに行ってきた多大な投資を守っていく。

2030年までに、5つのボロー全体で、総計4,700エーカー以上のパークランドや公共スペースを取得または改善できると推定している。2030年までには、全てのニューヨーク市民が公園から徒歩10分以内のところに住むことができるようになる。

## Our plan for parks and public space (公園と公共スペースの計画)

### 公園が不足する住宅地域における効果的な事業に狙いを定める

1. 公園と公共スペースの優先度の高い地域を特定するためのツールを作成する
2. 遊休地を遊び場または臨時的公共スペースとして開放する
3. 都市農園とコミュニティ・ガーデンを促進する
4. 既存スペースの利用可能時間を拡大する

### あらゆる種類のレクリエーションが楽しめる大規模なスペースを創出する

5. 主要公園を創設・改良する
6. 旧埋立処分場を公共スペース・パークランドに転換する
7. 水上レクリエーションの機会を増やす

### 公共の範囲を見直す

8. 街並みを活性化させる
9. 市、州、連邦間の協力関係を強化する
10. 歩行者・自転車道ネットワークを構築する

### 自然を育み保護する

11. 100百万本の樹木を植える
12. 自然地域を保護する
13. 生態系の連続性を確保する

### 公園と公共スペースの長期的健全性を確保する

14. スチュワード・シップを支援・促進する
15. 全ての公共スペースの設計と維持管理に持続可能性を導入する

### 公園が不足する住宅地域における効果的な事業に狙いを定める

公園と公共スペースを最も必要としている住宅地域の多くでは、校庭、交通量の少ない通り、空閑地、運動場がその潜在的利用価値を見過ごされている。既存用地の有効利用に狙いを定めた投資で、これらのスペースはコミュニティにとって価値ある資産となる可能性を有している。

「校庭を遊び場に」のような価値の高いプロジェクトは、住民の住宅近くの使用可能な公園と公共スペースの利用を増加させるために不可欠な役割を果たしてきた。我々は次世代におけるこのようなプロジェクトを明らかにし、相応しい場所を選定しなくてはならない。

### 戦略 1

#### 公園と公共スペースの優先度の高い地域を特定するためのツールを作成する

厳しい経済状態と、人口増加により様々な要求が高まる中、公園と公共スペース事業に要する財源は最も効果的に使用しなくてはならない。そのためには、新しい事業案を査定するための新しいツールが必要である。

あらかじめ選択したいくつかの基準に加重評価を行うスコアカードを作成する。基準には人口統計的データ、環境的要素、物理的状態、地域社会のニーズと支援、PlaNYCのような計画の目的との適合性等が含まれる。このスコアカードにより、現行の維持管理に必要な財源を考慮に入れ、管理における地域団体の協力強化を目指す。これらの基準は、長期的にどれだけうまく投資が維持できるか測定し、また、限られた財源を最も効果のあるものに戦略的投入していくかを判断するうえで有効である。

我々はまた、ニューヨーク市民の公園までの距離を測定する新しい方法を導入する。それは、単なる直線距離ではなく、街路ネットワークや公園に行くための実際のルートで算定する。

## 戦略2

### 遊休地を遊び場または臨時公共スペースとして解放する

2007年、公園の不足する地域で、より有効活用が可能な校庭が290ヶ所あることが明らかになった。住宅地域には遊び場が不足しているにもかかわらず、空き地や校庭を持つ学校は夏休み中ずっと、そして週末や夕方には閉鎖されていた。

我々は「校庭を遊び場に」計画を開始し、こうしたスペースを改修し、閉校時にコミュニティに開放した。その内の69ヶ所は追加の設備投資を必要とせず、ほぼ直ちに開放された。残りの場所については、「公共地を守る会」(TPL)と連携し、学生とコミュニティの住民が新しい遊び場の設備を選択するという参加型設計プロセスを取り入れた。2007年以降、我々は100ヶ所以上の建設や改修を行い、これまでに合計約180ヶ所(130エーカー以上に相当)を開放し、2013年までには230ヶ所以上が完成する予定で順調に進んでいる。

また、遊び場の必要性が特に高まる時期に備え、一時的な遊び場も建設している。例えば、サマー・ストリート計画の一部として、マンハッタンのパーク・アヴェニューは、夏季の土曜日3回、遊び場、散歩、自転車で利用できるようにし、文

字通りその名前に相応しい活気溢れる通りに変貌させた。今後も毎年実施していく。

コミュニティ団体が、道路を一時的な遊び場として推薦・申請・管理を行うプログラムも創設した。5つのボロー全てで、地元の団体が、夏季の週末に車両の通行を止めて行うウィークエンド・ウォーク計画の管理を行なっている。市は2010年に17ヶ所でこれらの計画を主催しており、2011年には20ヶ所で行う予定である。

プレイ・ストリート計画では、非営利団体や学校が一時的に道路を閉鎖することを許可し、子供たちが安全な監視された場所で遊び学ぶことができるようにした。非営利団体と連携し、最も必要性の高い地域で毎年15ヶ所のプレイ・ストリートが開催できるように努力し、更に、休校中も子供たちが遊べる場所があるように、40の学校がプレイ・ストリートを利用できるようにする。

## 戦略3

### 都市農園とコミュニティ・ガーデンを促進する

我々はコミュニティ・ガーデンや他の形態の都市農園の促進に真剣に取り組んでいく。コミュニティ・ガーデンは、コミュニティ形成や、地元文化遺産の支援、そして健康的な食物の入手といった重要な問題に人々の関心を集める上で大きな役割を果たしている。

市内には1000ヶ所以上のコミュニティ・ガーデンが存在する。その内の600ヶ所以上はニューヨーク市住宅公団(NYCHA)が維持管理している場所にあり、約500ヶ所が市のグリーン・サム計画(ガーデニング促進計画)に登録されている。我々は市内全域における良好なコミュニティ・ガーデンの設立を支援・強化するため、グリーン・サム登録ボランティア人数を25%増加させる。

コミュニティ・ガーデンの約80%が食物を育成しており、食物を生産しているコミュニティ・ガーデンのほとんどは、オープンスペースの少ない、新鮮な農作物や他の健康的な食物が入手困難な住宅地域に存在する。コミュニティ・ガーデンで栽培された農作物を含む新鮮な食物をより多くの市

民が入手できるように、我々は非営利団体のジャスト・フードと連携し、コミュニティ・ガーデン内への農家マーケットを5つの新しいファーマーズ・マーケット（農産物直売所）を設立する。更に、ファーマーズ・マーケットを支援する他の道も探っていく。

我々はまた、民間の非営利団体 GrowNYC と連携し、スクール・ガーデンを支援している。既に70のスクール・ガーデンが、市内全域のスクール・ガーデン計画であるグロウ・トゥ・ラーン NYC に登録しており、健康食品の選択や環境管理について積極的に生徒を教育している。市内全体のスクール・ガーデン登録を150ヶ所にする目標を達成するため、2013年末まで毎年登録者の75%を維持し、25のスクール・ガーデンを新規登録する。更に、50のスクール・ガーデンが、そこで栽培した食物を学校食堂で出すためのガーデン・トゥ・スクール・カフェ計画に参加している。

我々はこうしたコミュニティ・ガーデン、スクール・ガーデン、都市農園の数を増加させる方法を追求しており、市が所有する土地を徹底的に調査し、都市農園に適した用地を見つけ出す。更に、現存の法規を再検討し、コミュニティ・ガーデンや都市農園の整備を妨げている不必要な障壁を特定し取り除いていく。例えば、現在は耐乾性植物を利用した屋上緑化だけがニューヨーク州の屋上緑化減税を利用できるが、この法律を拡大し農作物も含めることで、屋上緑化と都市の食物生産増加を促進することが可能となる。

また、ニューヨーク市住宅公団（NYCHA）は、都市農園計画を拡大し、公団の土地に少なくとも1つの都市農園と、129のコミュニティ・ガーデンを整備する。

## 戦略4

### 既存スペースの利用可能時間を拡大する

現在市は、サッカー、陸上ホッケー、クリケット、ラグビー等の需要増加に対応できるだけの十分な天然芝グラウンドを所有しておらず、既存の天然芝グラウンドは激しい使用により急速に劣化している。

我々は需要に応えるため、26の多目的アスファルト広場の人工芝への転換を急ぐ。2007年以降、12のグラウンドが完成し一般に開放されている。これらの人工芝グラウンドは維持管理が容易で、年間のオープン日数も増加する。更にコンタクトスポーツを含む広範囲な競技に利用でき、絶え間ない激しい使用にも耐えることができる。

人工芝の健康・安全上の問題に対処するため。公園で新規の人工芝技術を使用する前には、諮問委員会に協議する。諮問委員会は2010年に市の立法に対応し編成された。

高品質なグラウンドの中には、日が暮れると利用できないものが数十ヶ所存在する。競技場の周りに照明を追加することで、各競技場は夏季は2時間、春と秋には4時間長く使用可能となる。我々は今後2年間で、19ヶ所の競技場に照明を設置する。

### あらゆる種類のレクリエーションが楽しめる大規模なスペースを創出する

住宅地域レベルを対象とした投資に加え、我々は大規模パークランドの利用強化にも焦点を向けている。

地域の公園は、最も目に見える形での一連の公有地改革の最終目的である。公園では、全ての市民が、レクリエーション、文化、教育的な体験を味わうことができる。今後住民数が100万人近く増加するということは、公園を多様なレクリエーションのニーズに応じられるよ機能向上を図り、新設することが必要ということである。

高度に発展したニューヨーク市には、そのような公園を整備するためのまとまった用地は僅かしかない。しかし520マイルのウォーターフロントの特定の場所は、住宅地域を変貌させられる可能性を有している。我々は、従来利用できなかった場所を、レクリエーションを提供し、商業・経済の成長を促進させる、活気に満ちたコミュニティ地域に変えることができる。新たな公的投資や民間投資、そしてより効果的なウォーターフロント地区土地利用規制により、ほぼ半分のウォーターフロントが市の公園と公共スペースの一部となっている。近年実施してきたウォーターフロントへのアクセスや質の改善により、水上レクリエーション



ヨンを楽しめる機会は増加した。ボート遊び、魚釣り、そして場所によっては水泳といったことが、ニューヨーク市民のウォーターフロントの楽しみ方として増えつつある。

## 戦略5

### 主要公園を創設・改良する

市内全域のレクリエーション用地は、大公園として活用される可能性を有している。追加的な投資を行えば、これらの公園の空間と設備は充実し、市全域から多数の住民が訪れ、利用できるようになるだろう。こうした用地の一つひとつの詳細な計画策定について、我々は既に周辺地域のコミュニティと協力を開始しており、または今後協力していく。

ブルックリンのマッカレン・パークでは、オリンピック規格屋外プールとして、あるいは年間を通じて利用できるレクリエーション・センターとして、マッカレン・プールを再建設中である。2500座席の屋内競技場建物をスタテン島のオーシャン・ブリーズ・パークに建設中で、これは市の3番目の屋内トラック・競技場施設となる。ハーレム川にかかるハイブリッジの再建により、ブロンクス住民は再びハイブリッジプール・レクリエーション・センターがあるマンハッタン北部の緑地帯沿いの公園に行くことができるようになる。クイーンズのハイランド・パークでは、貯水池周辺に照明を新設し、遊歩道を修復し、車椅子利用者用の入場口を新設する。マンハッタンの高架鉄道では、公園の追加区間が一般公開予定である。

2002年以来、市は公園用地として373エーカー以上のウォーターフロントの土地を取得してきた。我々は最近公表されたウォーターフロント総合計画(CWP)に基づき、これまでインフラ、規制、フェンス、民間使用等様々な障壁に妨げられ使用されてこなかったウォーターフロントとニューヨーク住民とを、再び結びつけるための努力を行なっていく。

ブルックリンのカルヴァート・ヴォークス・パークの市有ウォーターフロントでは、新たに競技場

と自転車専用路を建設中である。ブルックリンでは135年前に建設されたプロスペクト・パーク以降最大となるブルックリン・ブリッジ・パークを建設中である。マンハッタン・パークでは入場口と遊歩道の改善を行なっている。ブロンクスのサウンド・ビュー・パークでは、15エーカーの自然地域を復元し、新たにベンチと遊歩道を整備し、スポーツ施設を改良している。クイーンズのハンターズ・ポイントにおいては5エーカーの用地に新たに建設中の競技場、大肉に対処するための緑のインフラ、一般用フェリー乗場が完成間近である。スタテン島のステープルトンでは、6エーカーの遊歩道の建築に着手している。ガバナーズ・アイランドの改善には2億6000万ドルを投じ主要インフラを最新化し、歴史地区の景観を改良し、数千本の木を植栽し、荒廃した同島南部を新しいハンモックグローブ公園とプレイローン公園に変貌させる。ランダルズ島では、最近整備されたテニスコートや新しい照明付運動場、競技トラック、フィールド施設等に加え、更に歩道の改良や環境復元プロジェクトを追加実施する。

これらの大規模なレクリエーション公園はオープンスペースや水辺の利用を増加させ、多様なレクリエーションニーズを満たし、市民のアウトドア活動の質を向上させる。

## 戦略6

### 旧埋立処分場を公共スペース・パークランドに転換する

クイーンズ北部にある巨大な廃棄物処分場は、20世紀初期、F.スコット・フィッツジェラルドの著作グレート・ギャツビーで描写された「灰の谷」として有名であった。その後、我々はこの場所を1255エーカーのフラッシング・メドウズ・コ罗纳・パークとして変貌させ、現在市の公園システムにおいて最も活発に利用されている公園のひとつである。

今日、公園を整備するための最も有望な手段は、旧埋立処分場、現在大々的に手入れを行っている広大なオープンスペース、そして空閑地の適正な再利用である。市民の健康を確保しながら適切に用途の廃止と修復を施すことで、最終的にこうし

た用地をニューヨーク市民がリラックスして遊ぶ場所へと転換することができる。

その最も良い例がスタテン島のフレッシュキルズ・パークであろう。この公園は広さ2200エーカー、セントラル・パークの約3倍の大きさである。開発が完成した際には、ニューヨーク市で過去100年以上の間に整備された公園の中で最大のものとなる。

我々はまた、スタテン島のブルックフィールド通り埋立処分場、ブロンクスのフェリー・ポイント、クイーンズのエッジメア埋立処分場を不浸透性物質で覆い修復する。これにより、これら旧埋立処分場が数百エーカーの広大な自然地域に変身する。まず取り組むべき課題は、汚染物を确实・完全に無害化することである。これは労力を要し時間の掛かることではあるが、絶対に必要な予防措置である。しかし我々はどんなに時間が掛かろうと、安全にこれらの埋立処分場を公園に転換するために投資を続けていく。

## 戦略7

### 水上レクリエーションの機会を増やす

曲がりくねった大小の川、広々とした砂浜、狭い海峡等、多彩な水辺の環境により、ニューヨーク市はカヤックやカヌーといった多様な水上レクリエーションを楽しめる可能性を有している。水質改善と水辺へのアクセス向上は、水上レクリエーションを楽しむ人々を急増させている。レクリエーション水路の開発に最も役立っているのは、ニューヨーク市水路トレールである。市はこれをニューヨーク市水路トレール協会と共同運営している。動力を使わない人力ボートの人気の高まりを受け、同プログラムはカヤック、カヌー、ボート乗り場を整備し、水路のオンライン地図を提供している。

需要の増加に対応するためには、水上へのアクセス・ポイントや棧橋、陸上施設を増設し、確実にニューヨーク市民が水辺まで行くことができ、海や川を利用できるようにすることが必要である。我々はウォーターフロント総合計画（CWP）との調和を図りながら、ブロンクスのハンツ・ポイント・リバーサイド小型ボート用進水プラットフォームの拡張工事を完成させ、ブルックリンのベ

イ・リッジに多目的「エコ棧橋」を整備し、マンハッタンビルのウエスト・ハーレム棧橋を改良し、同じくマンハッタンのインウッドのダイクマン・ストリート・マリナー浮き棧橋を改良する。

レクリエーションの必要性は、水辺の商業利用の必要性とのバランス、利用者の安全および水質問題に対する関心とのバランスを取らなければならない。複数機関で編成するタスクフォースが、水辺を基盤としたレクリエーションのための水辺ネットワーク拡張の可能性を評価する。課題を改善することで、水辺へのアクセスを向上させ、ウォーターフロントにおけるレクリエーション上の必要性と商業上の必要性のバランスを取っていく。

## 公共の範囲を再考する

公園を利用できるようにするという事は、単に住居の近くに公園を整備するという事ではない。我々は街路、歩道、他の公共スペースそのものを再考する。歩行者・自転車専用道路、広場、街路樹、その他の手段により、街のいたる所を公園のようにする。これにより木陰と彩りが創出され、空気は清浄になり、不動産価値は向上する。

## 戦略8

### 街並みを活性化する

生活の質を力強く維持することは、街の活力と競争力のためのひとつの鍵となる。道路を実用的な車両用通路から、住民のための素晴らしい場所に変貌させることで、道路を利用する何百万もの人々の日々の体験を改善し、明らかな経済的利益をもたらすことができる。魅力的で歩きやすい道路は、歩行者と小売店を増加させ、安全性を向上させ、持続可能な交通手段の利用を促進する。

幅広い人々にとって道路がより魅力的な場所となるように、我々は多くの分野において取り組みを行っている。優先道路内には多目的広場を建設している。こうした広場があることで、公園だけでなく住宅地域においても住民が集い、野外活動を行えるようになっている。

NYC Plaza計画では、非営利団体が公園の少ない地区に焦点を定め、新規に広場を建設するかあるい

は既存の歩行者広場を拡大するための申請を行う。我々は最適な用地を選択し、こうした団体と共同し道路の一部を再設計し、住宅地域の広場作りを成功させる。

マンハッタンのワシントン・ハイツにあるプラザ・デ・ラス・アメリカスからブルックリンのベッドフォード・スタイベサントにあるマーシー・プラザまで、14ヵ所の様々な広場が、現在それぞれ計画中、設計中、建設中のいずれかの段階にある。これはマンハッタンのタイムズ・スクエア、やマディソン・スクエア、ブロンクスのフォードム・キングスブリッジ・プラザ、ブルックリンのウイロビープラザ等の象徴的な交差点で整備した一連の公共スペースに加わるものとなる。

これらの場所は、公共スペースの建設や拡大に寄与し、歩行者の安全性を向上させる。2013年までに13の広場の建設を完了させ、これらの取組みを推進していく。

我々はまた、新タイプの空間としてポップアップ・カフェをオープンする。天候が温暖な時期に、カーブレーン（歩道寄りの車線上）に公共ベンチや椅子を設置するものである。2010年の試みの成功を基礎として、来年には少なくとも4ヶ所の設置を許可するため、コミュニティ・ボードと協力して取り組んでいる。また、民間カフェ・オーナーがこれまでより簡単に歩道上でカフェを開くことができるように、規則の簡素化を図っていく。

更に、ニューヨーク市民が容易に歩道上で日々の暮らしを楽しめるようにする。現在、市の歩道には憩いの場所が少ない。これを改善するため、シティ・ベンチ計画を開始する。地域の利害関係者と協力し、市内全体に歩道上にスペースある主要な場所、例えば上屋を設置することができないバス停等の場所に500のベンチを設置する。

我々は最近開催されたアーバンシェッド国際デザイン・コンペの成果も活用する。同コンペでは、現在の歩道上屋に取って代わる新たな標準が開発された。建物の外装作業中に組まれる現在の歩行者保護足場としての歩道上屋は、ニューヨーク市民の安全を守ってはくれるが、歩道への見苦しく暗い侵入物の代表でもある。市にはこれらの上屋が現在6000箇所あり、総延長は約100万フィートに

相当する。最優秀デザインに選ばれたアーバン・アンブレラ（都市の傘）の設計は、魅力的で歩き易い道路づくりを推進しながらニューヨーク市民の安全を守っていくことが可能である。我々はこの新デザインの導入を、市の機関、建築物所有者、請負業者、専門家と協力して進めていく。

我々はまた、マンハッタン南部のウォーターストリートのアーケードに、移動可能なテーブルや椅子を置くことを許可することで道路景観の活性化のための取組みを続ける。路上の椅子やテーブルは、重要な歩道に沿いにありながら現在活気を失っている、一般人も利用できる民間所有地の活性化に役立つ。

## 戦略9

### 市、州、連邦間の協力関係を強化する

市内5万2000エーカーの公園の40%以上は市の所有ではなく、他の組織、主に州政府と連邦政府が所有している。これらの場所の多くは隣接しているが、しばしば異なった規則が適用されており、それが市の公園と公共スペースを一連のネットワークとして運営する上で妨げとなっている。

我々は、市内の公共スペースの連続性を向上させるために、州や連邦との連携を強化する。例えば、ニューヨーク市内の州所有の公園では犬や自転車は禁止されており、通常、市の公園より開園時間が短い。この格差が多くの問題を引き起こしている。ブルックリンでは、規則や開園時間が異なるために、イースト・リバー州立公園と市営のブッシュウイック・インレット・パークを仕切るための柵を構築しなければならなかった。ハーレム川ブロンクス地区側の歩行者自転車専用道路の計画は、州の規則でサイクリングを禁止しているため、州との取り決めができない限りロベルト・クエメンテ州立公園の手前で止めざるを得ない。

我々はニューヨーク市都市フィールド・ステーション（UFS）を通じて州や連邦と密接に連携していく。UFSは米国農務省森林局の北部研究所と、クイーンズ地区の歴史的名所であるフォート・トッテンに所在するニューヨーク市公園・レクリエーション局との共同事業である。UFSは森林局の実験的森林研究所をモデルとしたもので、都会の森林に

関する問題という特殊な研究に主眼を置いている。我々は将来に向けて、健康を増進し、環境保護を促進し、市の公園や公共すべールの管理を強化するため、研究と実践を結合させるパートナーシップを育成していく。

## 戦略10

### 歩行者・自転車道ネットワークを構築する

道路や他の専用通路は、レクリエーション促進、雨水の捕獲、空気の清浄化等、多くの機能を有している。我々は歩行者自転車道ネットワークを構築するチャンスを追求していく。

グリーンウェイ（歩行者自転車専用道路）は、鉄道、ハイウェイ専用道路、川辺の道、ウォーターフロント、パークランド、場合によっては街中の道路等、長く伸びたスペースに沿った、動力を使用しない交通手段のための多目的通路である。

1993年にニューヨーク市は、市全体にグリーンウェイを整備する上で不可欠な構造を明らかにしたニューヨーク市グリーンウェイ計画を公表した。それ以降、我々はこのネットワークの構築を続けており、さらに拡大するための取り組みが各ボローで行われている。

例えば、我々はブルックリン・ウォーターフロントグリーンウェイを整備中であるが、これは完成するとグリーン・ポイントから ショア・パークウェイまで14マイルに及ぶブルックリン、ウォーターフロント沿いの歩行者自転車専用道となる。各住宅地域を結合し、ウォーターフロントへのアクセスを向上させる、通勤者とレクリエーション利用者両方のための通路として構想されている。ブロンクス・リバー・グリーンウェイ、サウス・ブロンクス・グリーンウェイ、クイーンズ・イースト・リバー・トレイル、サウンドビュー・グリーンウェイ、スタンテン島サウス・ショア・グリーンウェイ、そしてマンハッタンのウォーターフロント・グリーンウェイの改善も完了させる。

我々はグリーンウェイの促進に加え、道路を変貌させていくことも目指している。過去数年間に専用道路のデザインと機能は大幅に改善された。我々はもはや道路を単に車両の通路として扱うだ

けでなく、不可欠な公共スペースとして、様々な形態の移動を促進させるものとして、或いはエコロジー資産として扱っている。

街路の潜在可能性を最大限に利用するためには、更なる努力が必要である。道路はそれぞれ異なっており、取組みはそれぞれの道路にどの機能—車両の通行か雨水の捕獲か—を取り入れ、どれを優先すべきかを理解することから始めなければならない。

グリーン・インフラ基金を利用し、市内全域でこれまでに完成した道路の改善を組み合わせることで、我々は市の将来の完成した道路網の姿を想定したテンプレートを設計することができる。

これを明確にするため我々は、高品質な道路設計と効率的なプロジェクト実施を促進させるための総合資料である、ストリート・デザイン・マニュアルの更新版を公表する。更新版には、道路を変身させるためのガイドとなる、グリーン・インフラ、街路樹、その他の植栽の利用と維持管理に関する景観の章が含まれている。これらの要素は既に、市全体の設備投資プロジェクト—例えば街路の植樹、再構成された路盤上のグリーンストリートの建設や植樹—に採用されている。

## 自然を育み保護する

ニューヨーク市は、大西洋中部の南部気候地域とニューイングランの北部気候地域の境に位置しているため、市の生態系は独特である。この地理的・気象的な重なりのために、動物植物の種類や生息地が独特に混在している。この生態系の健全性を保つことは、ニューヨークに清浄な空気や水、そして豊富な自然をもたらす自然の機能やシステムを維持する上で不可欠である。

## 戦略11

### 100百万本の樹木を植える

都市の樹木が与える多様な恩恵を多くの人々が認識するようになってきている。今日、多くの知見が樹木を市の経済および環境の健全性を保つための資産であると指摘している。街の樹木は夏の気温を下げ、空気の汚染を濾過し、木陰を提供してエネ



ルギーを節減し、雨水の流出を減少させる。実際、ニューヨーク市の樹木は非常に価値あるものと考えられており、道路や公園の樹木を傷つけたり、毀損させたり、無許可で手入れをしたり、その他の方法で害を与えることは違法とされている。

2007年、我々はニューヨーク復元計画と連携し、ミリオン・ツリーズNYCを開始した。これは市内全域に100万本の樹木を植えるという意欲的なキャンペーンである。樹木が極めて少なく、0~4歳児の喘息入院率が高い6つの住宅地域は特に「健康のための木」地域と名づけ、6万本以上植樹することを目標とした。

既に43万本以上の植樹が完了している。2013年末までには更に25万本を植え終る予定であり、合計で約65万本となる。

我々は、街路樹の若木死亡率に影響している環境要因を特定し、新規に拡大された都市森林を長期的に健全に保つ方法を研究する。また、街路樹の成長環境を最適にする新しい植樹技術の実証実験を行う。「街路若木の死亡率研究」の対象であった樹木の追跡調査を継続することにより、これらの樹木の長期的な生存能力をより良く理解することが可能となる。森林復元策の評価に活用するための試験的研究として、我々はミリオン・ツリーズNYCで実施した樹木復元場所における樹木の生存状態の観察を行なっている。更に、森林復元計画の長期的な成果の研究のため、20年程前に実施された復元樹木の調査も実施している。

## 戦略12

### 自然地域を保護する

市内には、マンハッタンのランブルからクイーンズのアリー・ポンド・パーク自然保護地域に至るまで、1万1000エーカーの自然地域が存在する。

51の自然保護地域がフォーエバー・ワイルド（永遠の野生）特定地域に指定されている。それぞれが市の代表的な野生生物の生息地であり、時にはその場所に植物や動物の固有種が存在する。これらの場所には8,700エーカー以上のそびえ立つ森林、活力に溢れた湿地帯、広大な草地が有る。ムササ

ビヤアメリカワシミミズク、珍しい植物等、何千という種類の生物の生息地である。それらは市のインフラにとって不可欠な自然要素であり、ニューヨーク住民や旅行者に、森中を散歩し、川で舟漕ぎをし、何千という種類の野生生物を自然の姿のまま観察する機会を与えてくれる。

これらの地域を保護するために、我々は自然地域管理委員会の創設を検討する。同委員会は、復元、保護、そして現在進行中の野生生物生態系管理への統合的アプローチを促進する。

## 戦略13

### 生態系の連続性を確保する

我々は生態系の連続性の確保に努める。人々や、植物、野生動物が、ばらばらに存在している自然地の間を容易に移動できる機会を増やすための、連続した緑のスペースを確保する。

2007年に市は、使用されていない数百エーカーの道路スペースを、活力溢れた緑の資産に変貌させるためのグリーン・ストリート計画の拡大を決定した。既に約260ヶ所のグリーン・ストリートへの植栽を終了しているが、毎年80箇所追加していく。グリーン・ストリートは雨水を捕捉し、水質を改善すると同時に、都市の景観上重要な環境的な安らぎを与える役割を果たしている。

我々は更に、屋上緑化の役割を拡充させていく。屋上緑化は、ばらばらな生態系と生息地とを生態学的に接続させる可能性を有し、都市型ヒートアイランド現象とビルのエネルギー・コストを減少させ、雨水保持に役立つ。我々は屋上緑化の設計・建設において生物の多様性を促進させる最適な方法を明らかにするための研究を行う。

また、ブルックリンのベルト・パークウェイの景観を修復し、生態系の連続性を確保し復元する。

最後に、建築物の敷地を生態系の保護に役立たせることができる方法についても調査を行う。建築物の敷地は市内の土地の約半分を占めており、ヒートアイランドの軽減、生物多様性の増加、雨水の貯留に貢献する大きな可能性を有し、その他に

も生態系の機能に不可欠な役割を果たす。我々は市の建築用地に関する景観規制に対応する枠組みを創出することで、この課題に初めて包括的に取り組んでいく。我々は市の「都市用地設計マニュアル」をベースとし、事例を示し先導的役割を果たしていく。そして全ての市の建設プロジェクトに適用可能な、持続可能性のある用地設計と建設方法の基準を創設し、設計ハンドブックを作成する。

## 公園と公共スペースの長期的健全性を確保する

1930年代以降、公園建設の最も素晴らしい時代とは、公園が生態学的、経済的、社会的に大きな機能を提供しより多くの人々に役立つことが求められる時である。今まさに、人口増加の問題と地球規模の気候変動が同時に進行しつつあり、公園システムに対する要求は高まる一方である。維持管理への配慮は、計画・設計過程に組み込まなければならない。ステュワード・シップ—市民やコミュニティ団体を参加させて行う公園の維持管理—は、公園開発過程の初期段階から市民を参加させることで育まなければならない。

### 戦略 14

#### ステュワード・シップを支援・奨励する

公園と公共スペースの長期的健全性は、それを管理する我々全員の共同した努力にかかっている。市は、非営利団体、ボランティア団体、そして公園の「仲間」である団体と協力してきた長い歴史を活かし、引き続き市にとって不可欠な要素である公園と公共スペースの維持管理を行なっていく。

「住宅地域公園のための誘因プログラム」(Catalyst for Neighborhood Parks)を通じ、我々は市の設備改良財源と、シティ・パーク・ファンデーション(市営公園基金)の芸術、スポーツ、教育プログラム民間基金を融合させる。「誘因プログラム」は、アイデアと人とネットワークを結び付け、対象とする公園の管理を支援し、最終目標である公園の行事やプログラムへの参加者を増加させるためのステュワード・シップ訓練を提供する。現在は、ブロンクスのサウンドヴェ

ー・パーク、マンハッタンのイースト・リバー・パーク、そしてブルックリンのカルヴァート・ヴォークス及びカイザー・パークにおける持続可能なステュワード・シップに取り組んでいる。同プログラムでは公園の維持管理とステュワード・シップについて20の団体を訓練し、公園行事の参加者を年間15,000人以上増加させる。

我々は地元の公園を支援するため、コミュニティ団体と支援団体を集める一連の公園ネットワーク会議の成果をさらに前進させる。初の試みとしてマンハッタンで実施された一連の会議を、他の4つのボローの公園にも拡大していく。

現行の維持管理の対象には、必然的に過去4年間だけでも43万本増加させたことで形成された樹冠にも拡大される。木のステュワード・シップを強化するため、我々はミリオン・ツリーNYCステュワード・シップ事業団を設立した。ステュワード・シップ事業団は引き続き地域市民組織や個人を募集し、ステュワード・シップとコミュニティ組織化の訓練を提供する。この訓練には、無料の樹木管理ワークショップとツールキットの配付も含まれている。

多くの校庭を遊び場にするための建設・設計を援助した「公共地を守る会」(TPL)との関係がこれらの用地でも役立っている。TPLは地域の遊び場をどのように維持管理すれば良いかをコミュニティに教えるためのステュワード・シップ・ワークショップを今後3年間に7回主催する。TPLは、新しい遊び場の現場でのステュワード・シップを促進させるために約100ヶ所に助成金を支出し、約60校に年2回植栽を届ける。

米国森林局とのパートナーシップを通じて、環境ステュワード・シップ・グループのオンライン・データベースである、「ニューヨーク市ステュワード・シップ・マッピング・アンド・アセスメント・プロジェクト」に貢献していく。この市全体のデータベースは、公共スペースの維持管理を行う地域に根ざした取組みを支援し、これらの団体相互間や市の機関とを結びつけるために有効となる。

全ての広場の整備事業にも、空間の維持管理や計画策定に参与するコミュニティのパートナーが存在する。ウィークエンド・ウォークス（週末の歩行者天国）はコミュニティ・グループが開始したものである。こうしたプログラムは、計画策定や公共の領域の管理を地域と共同で行うという価値観に根ざしている。

## 戦略 15

### 全ての公共スペースの設計と維持管理に持続可能性を導入する

広範囲なコミュニティをスチュワード・シップに参加させるだけではなく、我々は市の取り組みを常に最新の方法に改め、実施中の維持管理を通じて設計と建設を継続的に見直していく。我々は、持続可能性に関わる実務と改善目標の設定を結びつけながら、市の職員のための訓練・教育計画を開発している。市の土地の14%は市所有のパークランドであり、運営面で持続可能性を考慮することは、僅かな変更でも大きな影響力がある。

市の事業は、市と「公共スペース設計トラスト」が共同で作成した「高性能景観ガイドライン」に基づいて行う。これはこの分野においては全国で初めてのマニュアルなのである。同ガイドブックは、公園には、レクリエーションを可能にし、雨水を捉え、生態学的回廊の役割を担う、天候変化に弾力的に対応する景観としての機能が必要としている。我々は今後も引き続き、この原則を、設計、建設、運営に適用していく。

これらの新しいガイドラインを実施するために、電子図書追跡システムを開発し、投資プロジェクトの持続可能性に関するカタログを作成する。更に、設計者が実施基準と達成可能目標を設定するための設計チェックリストを開発する。

我々は更に、市の公園検査プログラムの評価基準と、資本投資事業の機能に整合性を持たせ、市の基準により事業成果が正確に評価できるようにする。例えば、現在の評価システムでは排水が不十分と見られる所が、実際には十分に機能している雨水庭園の可能性がある。更に、生態系復元やその場所に元々生育する植物の場合は、異なったタ

イプの維持管理が必要である。例えば、草地においては芝地に適用される標準に従わず年1回の刈り込みにすることなどが考えられる。

## 結論

これらの戦略を通じて、引き続き全てのニューヨーク市民が公園から徒歩10分以内の場所に住むという目標を推進していく。しかし、ニューヨーク市民を公園に結びつけるという課題は、アクセスの問題だけに止まらない。街角に新しく植えられた街路樹、素晴らしい都市広場、植林された丘、静かな湿気地帯等、様々なタイプの公園が市内全域に広がるなかで、我々は新たなレクリエーション・ニーズに対応した質の高い公園と公共スペースを提供していかなければならない

公共の範囲を、公園という枠を超えた公共スペースとしてイメージし直し、パークウェイやグリーンストリートを拡張し、コミュニティに公共広場を建設する。全ての人々が公園をもっと一体的に利用できるように、市、州および連邦の公園を結びつけ密接したオープンスペースのネットワークを形成していく。

最後に、我々はニューヨーク市民と共同し公共スペースの維持管理を行っていく。持続可能な設計の新たなガイドラインを導入し、生物の多様性を促進し、都市の生態系の健全性維持にコミュニティとボランティアを参加させることで、我々は確実に市の公園と公共スペースを将来世代に引き継いでいくことができる。

---

## ケーススタディ（事例） P. 39

### フレッシュ・キルズ

フレッシュ・キルズ・パークは、セントラル・パークの約3倍、2,200エーカーの面積を有し、過去100年以上の間にニューヨーク市内で開発されたとの公園よりも大きな公園となる。この広大さは、同時に多大なチャンスをもたらす。

フレッシュ・キルズはピーク時には世界最大の埋立処分場であり、毎日29,000トンの廃棄物を受け

入れ、無駄、過剰、環境無視の代表的例とされていた。

ここを生産的で美しい文化の場所に変貌させることで、フレッシュ・キルズは再生のシンボルとなり、どのようにすれば景観のバランスを復元できるかを表現することになるであろう。30年間に段階的に構築される同公園の計画は、復元と再生のビジョンに添ったものである。公園を訪れる人々は、マウンテンバイク、山道のランニング、カヤック、乗馬等の、都会の公園では珍しい活動を楽しむことができる。公園の設計、生態学的復元、文化・教育プログラムは、環境の持続可能性を強調し、人類が地球に及ぼす影響に対する新たな社会的関心を高める。そして同公園は、土地をリクリエーションの源、原産植物の生息地、苗床、再生可能な新たなエネルギー資源、植物・生態学研究の場所として統合する生きた研究所としての役割を果たすことになる。

ニューヨーク市公園・レクリエーション局は、ランドスケープ建設会社ジェームズ・コーナー・フィールド・オペレーションズが開発したマスタープランの実施を開始した。当初開発計画は、一般の入園と、公園の自然美と設計美との通常は見られない組合せを紹介することを主眼とした。公園の生態系復元は既に始まっており、鳥類、野生生物、原産生息種が繁栄している。訪問者は一般者用ツアーや教育プログラムでこの変貌について学ぶことができる。150年以上前、セントラル・パークはニューヨーク市民の生活に自然をもたらした。フレッシュ・キルズ・パークは21世紀のニューヨーク市民に、自然と都市生活を融合させる魅力的なレクリエーション活動で満ちた、新しい公園を提供する。

## ケーススタディ（事例） P. 42

### フラットアイアン広場

2008年以前は、フラットアイアン・ビルを取り巻く交差点は、道路と車が6方向に交差している迷路であった。マンハッタンの繁華街からは車が次々に進入し、歩行者の立ち止まれる場所も少ないことから、同交差点は車にとっても人にとっても十分に機能していなかった。

現在、この交差点は再設計され、交通の流れは改善され、新たに整備されたいくつかの場所は、それ自体が人々の目的地となっている。三角形の広場はフラットアイアン地区の繁華街に41,700平方フィートの公共スペースを提供している。歩行者、道行く人を観察する人、住民、近くのオフィスビルに勤務する人々は、今やプランターに囲まれパラソルで日除けされた広場でランチを食べながら、ニューヨーク市で最もよく写真に撮られている建物の素晴らしい眺めを楽しむことができる。

新たに公共スペースが作られ街路が再設計されたことから、歩行車の安全と交通の流れが向上した。かつて歩行者にとっても自動車にとっても横断が難かった広い道路には安全地帯が設けられ、道路幅は狭められた。交差点を通過するバス路線も簡易化され乗客の移動時間は短縮された。ブロードウェイと5番街の自転車専用道路は街中を移動するための代替手段を提供している。

市交通は、フラットアイアン・ビジネス改善地区と協力して、植栽、テーブル、椅子、パラソルをブラザに設置した。市に代わって同団体が、官民パートナーシップ契約に基づいて広場の維持管理を行なう。

ニューヨーク市のあちこちで、フラットアイアン・ビルのような広場が街路を変身させており、思いも寄らない所がレクリエーションや息抜きの場となっている。フラットアイアン・ビジネス改善地区が行った調査では、調査に協力した人の84%が新広場を楽しんでいる。疲れた買い物客や忙しい会社員、あるいは土曜の午後に散歩する人々にとって、広場は忙しい街中の憩いの場所となっている。

## ケーススタディ（事例） P43

### 活気に溢れた都市森林の必要性を満たす

米国森林局と聞いてアメリカ人が思い浮かべるのは、多分、スモーキー・ベア（米国森林局のマスコットキャラクター）やモンタナ州の人里離れた山々であろう。しかし今は、クイーンズも思い浮かべるべきなのである。



都市森林管理は、複雑で急速に進展している科学である。その先端を行くために、2010年9月、ニューヨーク市と米国森林局は共同でニューヨーク市都市実地研究所（UFS）をクイーンズのフォート・トッテンに開設した。UFSは、全米に存在する100年の歴史を持つ森林局の実験的森林研究所をモデルとしているが、UFSにはユニークな特性がある。すなわち、この研究所が米国で最大の都市の中にあり、都市地域の樹木に特有な状態に焦点を当てていることである。

UFSの科学者達は長期的な研究を行っており、ミリオン・ツリーズNYC、公園の改善、都市生態系管理等、PlaNYC計画を支援するための知識を提供する。

例えば、同研究所は生態系の健康状態を知る上で手掛かりとなる有機体である、生物指標を研究している。彼らのサンショウウオ研究は、ヴァン・コートランド・パークやインウッド・ヒル・パーク森林の健康状態を管理者が測定するうえで役立っている。それは、サンショウウオの健康状態は森林の健康状態を示しているからである。

更に研究者達は、都市の復元が生態系と人間の健康にどのような影響を与えているかを研究しており、空気の質や住宅地域の気温を下げるのに樹木がどれだけ役立っているかを定量化している。この分析を支援するために研究者達は、LiDAR（光検出と測距）技術を利用した新しい土地被覆図を利用してニューヨーク市の樹冠を測定する。その情報により、樹木の恩恵を最大限に利用するために、街路樹の利用方法を変える可能性もある。

ニューヨーク市と米国森林局との研究パートナーシップは、市の樹木、公園、天然地域の健全性を維持するために有用な情報を生み出している。